【実践報告】

文学作品を通して他国の文化と歴史に触れる

全学共通教育「ロシア革命と文学」での取り組み

白村 直也 [1)]

[1)] 岐阜大学教育推進・学生支援機構

要旨

本稿は岐阜大学全学共通教育教養科目で筆者が担当している「ロシア革命と文学」(後期)にて初回と最終回（自由記述）で実施したアンケート結果を踏まえ考察を加えるものである。ロシア革命という世界史的な出来事を当時の文学作品を通じて振り返り，革命後のソ連社会の文化や社会状況に迫ることで，その深い理解を得ることを目的とした。

絶大な権力者として歴史にその名を残すスターリンには，その「残虐性」をはじめネガティヴな印象が強い。1953 年のスターリンの死に，なぜ多くの人々は涙を流したのか。通史を文化的な側面から扱ったこの授業の最後にこの問いを学生に投げた。いくつかの資料を示しながら，歴史上の他者に想いをはせることで歴史への学びを深めた。

キーワード：スターリン，全学共通教育，文学，レーニン，ロシア革命

１．2020 年度　岐阜大学全学共通教育「ロシア革命と文学」について

本を読まない，留学したがらない学生が最近増えているということをよく耳にする。漫画は広く読まれるのに対して，小説や文学作品を手に取る学生が減少しているようだ。2018 年に全国大学生活協同組合連合会が「第 54 回学生生活実態調査の概要報告」を出した。これは，全国の国公立および私立大学の学部学生を対象に，その生活実態を調査したものだ。この報告によれば，1 日の読書時間「0」が回答者中 48.0%と，半数近くの学生に読書習慣がないという。自分の学生時代を振り返っても自慢できるほど読書に励んだわけではないが，最近こうした「本を読みましょう」という裏のメッセージが込められた調査が非常に多いように思われる。本を読むことで得られる経験や知識は計り知れないが，もし本を読まない学生が年々増えているなら，文学作品，さらには海外の文学作品に慣れ親しんでもらうのは至難の業のように思われる。

筆者が担当する授業の中に「ロシア革命と文学」（後期 15 回）という授業がある。初年次（1，2 年生）を対象とする全学共通教育の授業である。この授業を開設するにあたって筆者がシラバスに埋め込んだ狙いは 2 点あった。1. 授業を通じて文学に触れ，学生の読書習慣を醸成する。2. 授業名に「文学」と銘打ってはいるものの，文学を通じて他国（本授業では隣国ロシア）の歴史と文化に触れてもらいたい，の 2 点である。この点についてはシラバスにその旨記した（表 1)。初年次教育の中で読書に慣れ親しみ，今後図書館に通って本を手に取るきっかけ作りになれば，とも考えた。

表 1．2020 年度　岐阜大学全学共通教育「ロシア革命と文学」（後学期）

授業概要	この授業は，次の 3 点から構成されます。 ①　まずは帝政ロシアから革命を経て，ソヴィエト連邦に移行していく歴史を通史として学び，その上で　②　革命の理念と目的を，当時の社会状況に照らして紐解いていきます。それを踏まえて，　③　当時の作家（詩人）が果たした役割と，テキスト（和訳文）を読み解いていきます。文学を通じて，隣国ロシアの歴史と文化を学ぶことが，本授業のねらいです。 2017 年はロシア革命 100 周年にあたり，ロシアでもニュースや出版物を通じて，ロシア革命を振り返る機会が多く持たれました。この世界史的な出来事について文学を通じて振り返り，ソ連やロシアの文化・社会について，深い理解と自ら考える力を身に付けていくことを目標にしています。
到達すべき目標	○　時代背景を念頭にロシア文学に触れることで，テキストに関する，より内在的な理解ができるようにする。 ○　ロシア文学を通じてその文化に触れ，隣国への興味と関心を養う。

２．授業アンケートの実施

この授業を担当するようになって，はや 2 年になるが，今年度初めて学生にアンケートを取ることとした。これは厳密なアンケート調査ではなく，大まかに学生の傾向を把握すると同時に次の 2 つの目的から実施した。①学生にとってソ連やロシアがどの程度馴染みのある国なのかを探る，②高校での学び（たとえば世界史）を通じてどのようなイメージを持っているのか，である。

今年度の履修者数は 50 名（新型コロナウィルス感染予防を考慮して履修者（教室収容人数）は例年の 6 割を上限とした）であった。4 年生 1 名，2 年生 6 名，1 年生 43 名となっている。また学部ごとで見てみると，工学部 32 名，教育学部 9 名，医学部 5 名，地域科学部 3 名，応用生物学部（旧農学部）1 名からの履修者があった。いわゆる理系学部からの履修者が多いが，これは授業の時間帯とそもそも工学部の学生が全学生数の 5 割程度

を占めているからであろう。アンケートには以下の 5 問を設定した（回答者数は初回の授業に出席していた 47 名）。

1. 今までに「ロシア人」と交流したことはありますか？

はい・・・3 名，いいえ・・・44 名

「はい」と答えた学生の回答

○　1 年前期のロシア文化の授業で（ロシア人の外部講師：筆者）

○　小 6 の修学旅行で，京都・奈良にいる外国人に英語で簡単なインタビューをした時。

○　ALT（Assistant Language Teacher：筆者）の授業で小学校の頃，英語を教えてもらった。

3 人だけ，というのは当初想定していたより非常に少なかった。また，「ロシア人」との交流は英語教育や大学での授業の関係でわずかにあったということのようだ。

2. 最近ロシアが話題になったニュースといえば？

○　未記入，分からない，特にない・・・23 名

○　東京五輪へのサーバー攻撃・・・・・4 名

○　フィギュアスケート関係・・・・・・4 名

○　スポーツ選手のドーピング問題・・・3 名

○　北方領土に関するもの・・・・・・・3 名

○　ウクライナとの争い・・・・・・・・2 名

○　新型コロナウィルス問題他（記入が 1 名のニュース）・・8 名

「未記入，分からない，特にない」が最も多いが，普段の生活の中で触れることがないロシアについて，あまり関心が持てないのは当然のことだろう。ただ，フィギュアスケートや東京五輪といったスポーツに興味を持つ学生は少なくなく，その関係で良くも悪くも話題を提供するロシアについて見聞きすることはあるようだ。

3. ソ連とロシアのイメージを色で例えるなら何色ですか？（それぞれ 1 色）

ソ連：　赤色 28 名，白色 5 名，青（青紫）色 5 名，黒色 4 名，未記入 3 名，黄色 1 名，水色 1 名

ロシア：　白色 24 名，青色 13 名，赤色 5 名，水色 4 名，茶色 1 名

表 2．ソ連とロシアのイメージを色で例えるなら何色ですか？またはその理由について

ソ連	ロシア	その色を選んだ理由
青紫	青	ソ連はあまりいい印象がないから。ロシアは国旗が赤，青，白で青が一番イメージに近いから。
赤		ソ連：国旗，革命の勢い，争いで流れた血，農村の土。ロシア：崩壊後の落ち着き，安心安全の反面国力を失った。
		ロシア革命という悲惨な出来事を受けてできた国であるから，赤色のイメージ。ロシアが青色だと思ったのは，国旗に含まれている色というのと，雰囲気が冷たいイメージから。
		ソ連は，たくさんの犠牲の上に成り立った国だから赤，ロシアは崩壊後の新しい国だから青。
	白	ソ連は帝政のイメージが強いので，攻撃的な色が浮かんだから。ロシアは寒そうだから。
		国旗の色が赤だから。白は北国だから。
		ソ連は暴力的なイメージがあるので，暴力的なイメージがある赤色。寒そうなイメージがあるので，ロシアは白。
		赤は社会主義，白はロシアの寒さから印象を受けた。
青		ソ連の青は，なんとなく独裁できゅうくつで，どんよりしているイメージ。ロシアの白は，白人というイメージと，少し自由となった解放されたイメージ。
黒		ソ連と聞くと，詳しくは知らないが，攻撃的な隠し持った何かを常に持っていそうな暗い印象だが，ロシアはそんなことなく，白人が白い世界で生きている感じがする。
	茶	ソ連は崩壊してしまったり，ロシアはドーピングであったり，東京五輪へサーバー攻撃をしたりとあまり良いイメージがないので，暗めな色にしました。

一番多いのはソ連の赤色，ロシアの白色であった。表 2 にはアンケートに書かれた理由をいくつか挙げたが，国旗の色からその色が浮かんだというコメントが多かった。また，ソ連の赤色をその攻撃・暴力性の象徴として捉えるコメントが散見された。

4．ソ連とロシアについて：ソ連／ロシアと聞いて浮かぶもの（人以外）は何ですか？（複数記入可：最大 3 つまで）

この質問に対する回答を下記円グラフ（図 1，2）にした。どちらもその他（回答数が 1～2 人だったもの）が大きなウェイトを占めているが，ここでは多数出た回答を見ておきたい。ソ連の方は，「社会主義」や「冷戦」，そして「戦争」といった史実に沿った「適切」な回答が多く見られるが，一方のロシアについては「寒い」，「広大」，そして「マトリョーシュカ」など，ソ連期にも通じるものがほとんどであった。ソ連については世界史で学んだからかインパクトを強く持っているが，ロシアならではのもの，というと回答に困ってしまうのだろう。

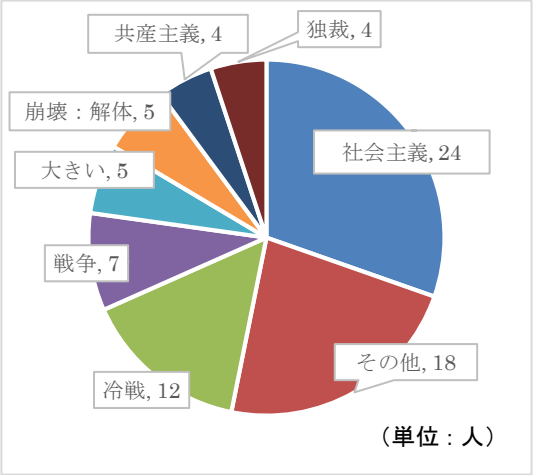

図 1．ソ連と聞いて浮かぶものは？

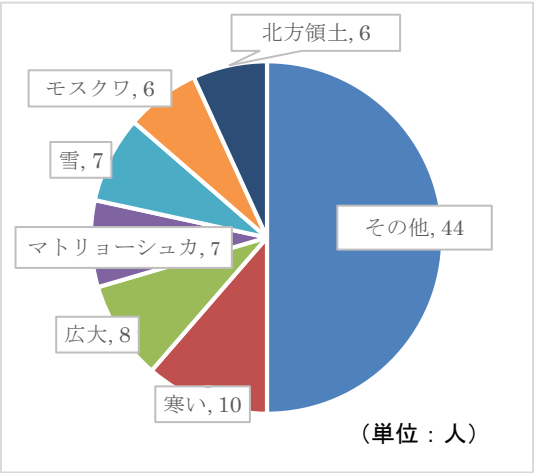

図 2．ロシアと聞いて浮かぶものは？

5．知っている作家と作品を挙げてください。

（作家）　ドストエフスキー・・・6 名，チェーホフ・・・1 名，トルストイ・・・2 名

（作品）　罪と罰・・・2 名，イワンのバカ・・・1 名，白鳥の湖・・・1 名，
地下室の手記・・・1 名，カラマーゾフの兄弟・・・1 名，
アンナ・カレーニナ・・・1 名

ソ連やロシアの作家名と作品名について尋ねたが，ほとんどの学生が未記入のままであった。ドストエフスキーやチェーホフ，そしてトルストイの名前を挙げた学生もいたが，名前は知っているけど作品は読んだことがないという回答も見受けられた。

３．授業風景

このアンケート結果を踏まえて，「ロシア革命と文学」を始めることとなった。アンケートの質問 2 への回答を踏まえ，毎回授業の冒頭で学生に身近な話題（最近の文化事情）に触れウォーミングアップすることとした。その回の授業テーマに沿った話題を用意し，自分が最近観たロシアの映画をはじめとする現地の文化事情，そして自分の留学体験について話すこともあった。アンケートから把握した学生が持つ知識を「点と点を線で」繋ぎ，帝政ロシアやソ連がたどった歴史的な文脈の中で学生が抱くソ連のイメージ（例：赤色（攻撃・暴力性））を解きほぐそうと考えた。この点を意識しながら，帝政ロシアからソ連を経てロシアに至る歴史を数回に分けて学ぶようにした（図 3）。

ソ連になって、何が、どう改善されたのか。

○　富豪と貧農の格差　→　クラーク撲滅運動
○　乳幼児死亡率の高さ　→　医療費「無料化」
○　識字率の低さ（教育の整備）　→　１９３０年代初頭義務教育
○　女性の社会的地位の向上　→　家事からの開放、家族の消滅
○　民族の平等　→
　民族言語の平等、経済の原理によりロシア語優位は保たれる（レーニン）
○　土地、パン、自由の獲得　→　新経済政策（ネップ）からのゆるやかな移行
○　諸外国との緊張　→　即時停戦

図 3．第 3 回目授業のスライド

第 4 回の授業を終えたところで DVD を視聴することにした。少し時間が経過してしまっているが，2017 年はロシア革命 100 周年であったこともあり，現地ロシアはもとより日本でもこの世界史的な出来事を振り返る催しが多く持たれた。視聴したのは，学生と同世代のロシアの若者が教育を通じてどのように学び，どのように振り返るかを特集した NHK E テレ「ロシア革命 100 年後の真実」（2017 年 11 月 25 日（土）放送）である。

番組は帝政ロシアからロシア革命に至るまでの道筋を非常に分かりやすく示し，当時の社会状況はもとより，革命を指導したウラジーミル・レーニン（1870-1924）の人間性にも迫るものだった。ロシア革命は必要だったのかと問われた学生から「必然的な出来事だった」，「暴力を伴ったのは良くない」など肯定・否定の両意見が述べられた。同世代のロシアの学生の意見に，視聴した学生の多くも何かを感じ取ってくれたように思う。

以上を踏まえて授業では，動画の中で出されていた同じ質問「ロシア革命とは何だったのか，必要だったのか」をグループで話し合い，発表することとした。各グループで様々な意見が出され，過去の歴史的な出来事についても実に多様な評価や捉え方があることを感じ取ってくれたら，と思う。また 7 回目以降は文学を中心テーマに，帝政ロシアと革命後のソ連で活躍した作家とその代表的な作品の説明をした。

1914	第一次世界大戦勃発	
1917	二月革命、十月革命	
1918-20	内戦・干渉戦争	
1921	新経済政策（ネップ）実施	政治の側からの芸術への規制はゆるやか。さまざまな文学集団が共存。国内戦、社会主義建設、社会主義的人間像の形成。 ① プロレタリアートに独自の階級文化を創造（プロレタリアート文学運動） → 芸術の政治からの独立を主張、より保守的。 ② 文学の革新、反伝統。芸術と生活の結びつけ（アヴァンギャルド芸術運動）
1921-22	飢饉	
1922	ソヴィエト連邦成立	
1924	レーニン死去	
1927	第15回共産党大会　（農業集団化開始）	
1929	第一次五ヵ年計画開始	社会主義建設が本格的に開始され、社会生活のあらゆる領域で変化が起こった。社会主義建設をテーマとし労働を賛美する作品が多い。
1932-33	飢饉	
1934	第17回共産党大会　「勝利者の大会」 第１回作家同盟大会　（社会主義リアリズム）	作家同盟が成立、社会主義リアリズムの時代、文学におけるスターリニズム。
1936-38	大粛清	
1939	独ソ不可侵条約	

5. おおまかな歴史と文学の潮流

図 4．第 8 回目授業のスライド

また，8 回目の授業では上記のスライド（図 4）を使用しながら，「ソ連文学」という場合の枠組みの問題からはじめ，当時の文学や文化を取り巻く状況を説明した。このような一連の説明を終えた後で，学生にある課題を出した。それは「ロシア革命前後に活躍した作家を一人選び，その人の作品を 1 つ読む。」というものだ。あらかじめ代表的な作家（ロシア革命前後）のリストを作成し，その作家の作品（簡単なストーリー）も紹介した。グループ内の他のメンバーと重ならないように各自が読みたいと思う作品を選ばせた。その作品を読む中で，ストーリーはもとより，作家が描く世界観や込められたメッセージ，そして当時の社会描写に注意して読むように伝えた。期限はおおよそ 3 週間とし，読み終えた後で各自が感じ取ったことをグループ内で共有するという手順を踏んだ。

その後授業では 2 回目となる DVD 視聴をした。前回の DVD は時期的には主に 19 世紀末から 1920 年代半ばを扱ったものだが，ソ連史を紐解けばその後はヨシフ・スターリン（1878-1953）がソ連の経済や社会生活，そして文学をはじめとする文化の面でも非常に重要な役割を担うようになる。当時の状況を分かりやすく，また文学作品を読み進める上で参考になる DVD を，ということで選んだのが学生に人気のあるアイドルが司会を務めた NHK「ザ・プロファイラー ～夢と野望の人生～」という番組シリーズの「2000 万人を死に追いやった男　スターリン」（2015 年，ゲスト：亀山郁夫先生（名古屋外国語大学）他）である。この番組は，番組名とは裏腹にスターリンの生い立ちや家族関係（息子とのいざこざ）に触れるもので，良い意味でスターリンについて抱きがちな一辺倒なイメージに揺さぶりをかける内容になっている。視聴後のアンケートでも，この DVD 視聴の目的に沿った感想が多く寄せられた。

授業はその後，各学生が読み終えた作品のストーリー，作家が描く世界観や込められたメッセージ，そして当時の社会描写についてグループ内での共有に移った。大学や近隣の図書館に希望する書籍がないなどのトラブルはあったものの，極力自分の興味に合う作品を選び，なんとか期日までにほぼ全ての学生が読み終えていた。共有を通じて，帝政ロシアとソ連の社会のありようと変革，そしてロシア革命を生きるとはどういうことだったのかを模造紙にまとめ，グループ発表を実施した（図 5，6，7）。

図 5．学生発表①

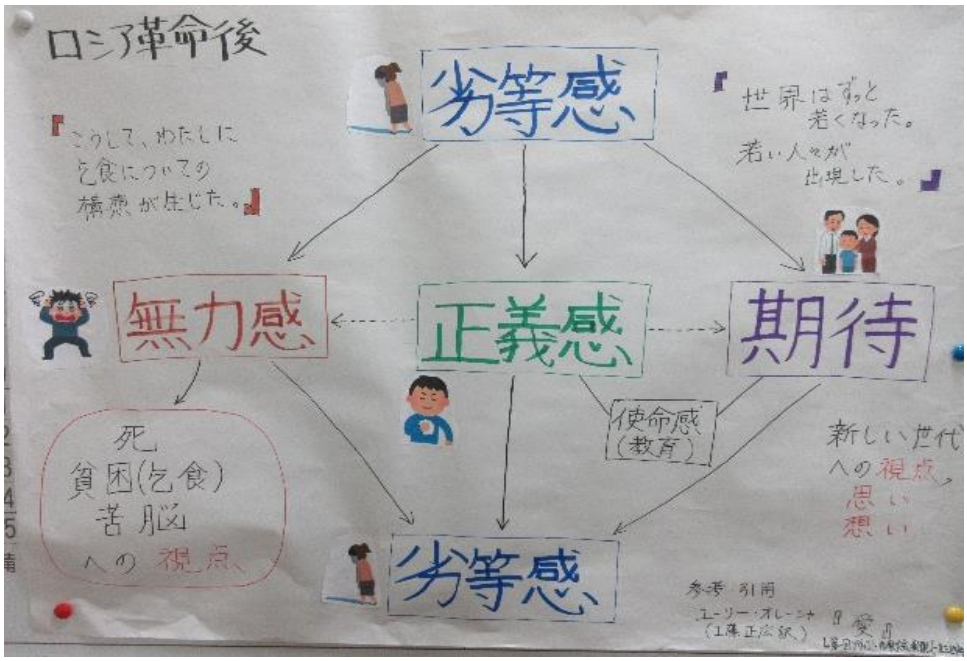

図 6．学生発表②

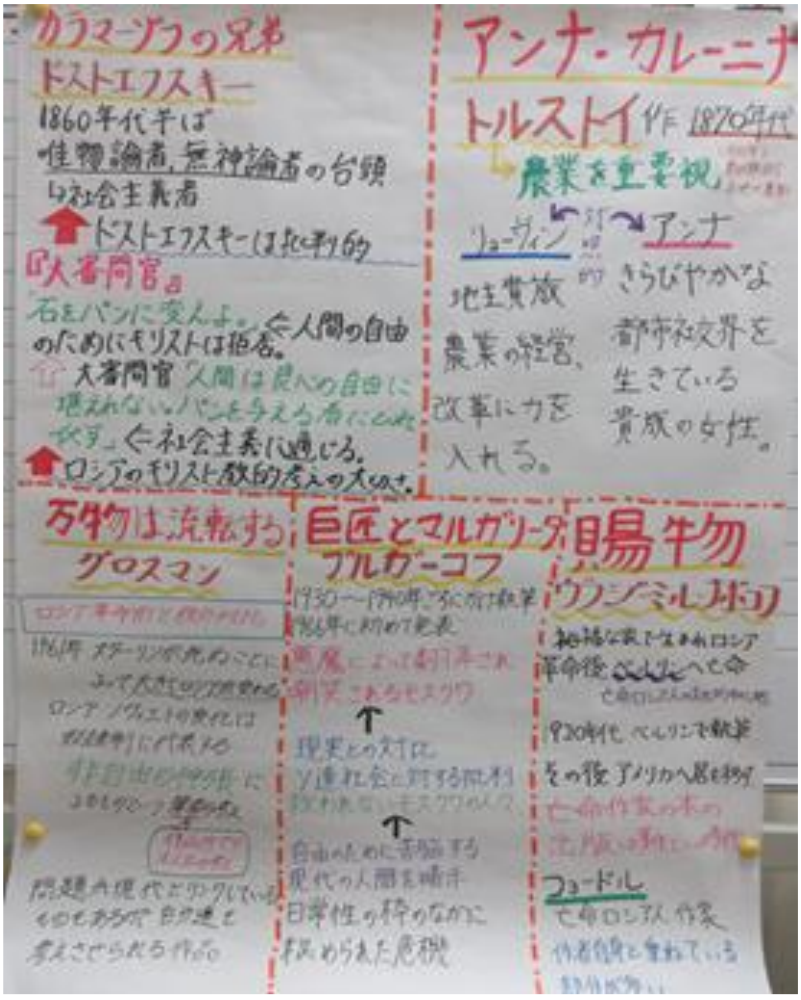

図 7．学生発表③

グループ発表の狙いは 2 点あった。それは，1．学生にとっては，自分が選んだ本とは異なる本を通じて同じ時代にアプローチしていることもあり，様々な視点から帝政ロシアやソ連にアプローチすることが狙いでもあった。また，2．自分が選ばなかった本の説明を受けた中で興味がある本があれば，今後の読書経験に繋がる，というものだった。

どのグループの発表も非常に丁寧に準備されており，自分たちが読んだ作品以外の資料にも手を伸ばし，グループの中で学びを深め，当時の社会状況にイメージを膨らましていることがよく伝わってくるものばかりだった。各グループの発表ごとに教室の学生からの質疑応答，また筆者からの補足情報の提供と質問の時間を設定した。この発表を終えた後で，シラバスが多少前後するが扱えなかった詩に触れ，授業の中で詩を朗読した。

この回ですでに全 15 回のこの授業も終わろうとしていた。ロシア革命を授業の名前に入れているものの，実はいつまでをロシア革命というのかは意見が分かれるところだが，

この授業ではスターリンの死（1953 年 3 月）をもって総括することとした。そこで関連する資料と動画をもとにスターリンの死がもたらした社会的な影響についてアプローチした。

スターリンの死をめぐっては，学術の分野ではその経緯（脳卒中，暗殺説）やそれが与えた国内外での影響などが注目され，そして多くの映画（近年ではコメディー色がやや強いが 2017 年「スターリン葬送狂想曲」（イギリス映画））やドキュメンタリー作品が制作され続けている。当時としてもその影響は果てしなく，この知らせを受けた人々が悲嘆に暮れる姿が印象的である。

この授業では帝政ロシアからソ連に至るまでの歴史的な歩みを，ロシア革命をある種の頂点として見てきた。そしてその過程で学生にしてみれば目を背けたくなるような史実に触れることもあったに違いない。この授業を終えるにあたって最後に学生に投げたのは，この授業を全体として振り返る意味でも，なぜスターリンの死に多くの人々が涙したのかということだ。自由記述としてイメージを膨らませて書いてもらった。いくつか紹介したい。

○　これまでスターリンに苦しめられてきて，家族や恋人，友人が捕まったり，殺されても誰にも言えないし，訴えることもできず，どんな時にも油断できなかったと思う。だが，スターリンが亡くなったことによって，（中略）これまでの悲しい出来事を思い出し，悔しさと怒りが込み上げてきたのかなと思います。スターリンから解放されて，嬉しい「嬉し涙」と思う人もいたのではないかと思います。

○　家族をも敵に回したスターリンの事を心から悲しんで涙を流す人はいなかったと思う。（中略）悲しまなければならないというところで，どこか安心している自分がいることに動揺し，何が何だか分からなくなって泣いている人もいたかもしれない。（以下，省略）

○　スターリンは長年の宣伝の結果，国民にとって一種の家族のような存在になっていたのだと思います。（中略）彼の死は，今までなんとなく近くにいてくれた家族が突然死んでしまったように感じて涙を流したのだと思います。

○　2 通りの涙があったと思う。1 つは，スターリンという信じてやまない生活の全てであった存在を失ったことによる悲しみの涙。もう 1 つは，スターリン時代に身近な人が粛清の対象となり殺され，自らも行動を制限され，そういった苦しみの大元が消えたことによる安心，よろこびの涙だと思う。（中略）こうした 2 つの涙があったと考える。これは日本の「玉音放送」を受けた反応の違いによく似ていると感じる。

○　色々な意味があると思う。スターリンを信じて共産党を推し進めた，崇拝のような悲しみの涙。またそのように見せかけて，多くの身内を帰らぬ者としてきたという家族や周りの人物を思う涙。（以下，省略）

４．おわりに

日本を囲むいくつもの国の中で，ロシアは「近くて遠い国」だとよく言われる。その理由は色々だろうが，社会主義や共産主義というものに対するアレルギー，警戒感があるように思う。くわえて，学生世代でいえばメディアを通じて伝わるロシアのニュースに明るい話題が少ないというのもあるようだ。

だが，ちょっと立ち止まってあの国を考えてみたいというのが，本講義の出発点だった。スターリン時代の粛清や社会主義，そして共産主義への評価は別に，歴史や文化を通じて，あの国で生きた人々の生をくみ取り，苦難な時代を生きる，生き抜くとはどういうことだったのかを考えてほしいと思った。非常に欲張りな目的を掲げてはいるが，この授業を通じてロシア文学に触れ，歴史上の他者の経験に想いをはせることは，今後グローバルな社会で活躍するであろう学生には，きっとかけがえのない財産になるように思う。

スターリンの死に直面した人々はなぜ涙を流したのかについて書いてもらったが，どの学生も想像以上にイメージを膨らませてこの時代を生きた人々と対話を繰り返してくれたことを非常に嬉しく，また心強く思う。

【参考文献】

1. アレクサンドル・プーシキン著，金子幸彦翻訳（1968）「プーシキン詩集」，岩波書店。
2. アントン・チェーホフ著，松下裕翻訳（2008）「チェーホフ・ユモレスカ　―　傑作短編〈1〉」，新潮社。
3. NHK E テレ「ロシア革命 100 年後の真実」（2017 年 11 月放送，筆者が録画をしていたものを授業で使用）
授業内での利用方法については，「教育・研究目的での NHK 番組の利用をお考えの方へ」［https://www.nhk.or.jp/nijiriyou/kyouiku.html］（2022 年 2 月 10 日掲載確認済み）に従った。
4. NHK「ザ・プロファイラー ～夢と野望の人生～」ファイル 53「2000 万人を死に追いやった男　スターリン」（2015 年 10 月放送，筆者が録画をしていたものを授業で使用）
授業内での利用方法については，「教育・研究目的での NHK 番組の利用をお考えの方へ」［https://www.nhk.or.jp/nijiriyou/kyouiku.html］（2022 年 2 月 10 日掲載確認済み）に従った。
5. 亀山郁夫，沼野充義（2017）「ロシア革命 100 年の謎」，河出書房新社。
6. 川端香男里他監修（1993）「ロシア・ソ連を知る事典」，平凡社。
7. 金田一真澄編著，三浦清美他著（2007）「ロシア文学への扉－作品からロシア世界へ」，慶應義塾大学出版会。
8. 全国大学生活協同組合連合会（2019）「第 54 回学生生活実態調査の概要報告」［https://www.univcoop.or.jp/press/life/report54.html］（2022 年 2 月 10 日掲載確認済み）
9. ソロモン・ヴォルコフ著，今村朗翻訳（2019）「20 世紀ロシア文化全史 ： 政治と芸術の十字路で」，河出書房新社。

10. 田中陽児，倉持俊一，和田 春樹編（1994）「ロシア史（世界歴史大系）」，山川出版社。
11. 藤沼貴，水野忠夫，井桁貞義編著（2003）「はじめて学ぶロシア文学史 (シリーズ・はじめて学ぶ文学史)」，ミネルヴァ書房。
12. 若林悠著，桑野隆監修（2017）「風刺画とアネクドートが描いたロシア革命」，現代書館。